

高い山、深い谷が育む生物と文化の多様性



切り絵：柳 土情



南アルプス
ユネスコエコパーク

守る自然と活かす自然。山々でつながる心と心。 自然と人が共生する地域へ。

ユネスコエコパークとは…

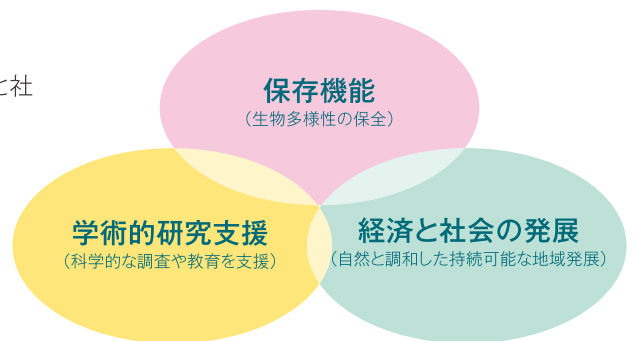
ユネスコエコパークとは、生態系の保全と持続可能な利活用の調和(自然と人間社会の共生)を目的として、1976年にユネスコが開始しました。ユネスコの自然科学セクターで実施されるユネスコ人間と生物圏(MAB:Man and the Biosphere)計画における一事業として実施されています。地域の豊かな生態系や生物多様性を保全し、自然に学ぶと共に、文化的にも経済・社会的にも持続可能な発展を目指す取り組みです。

ユネスコエコパークとは国内通称で、海外では「BR:Biosphere Reserves(生物圏保存地域)」と呼ばれています。現在、世界では120ヶ国、651地域、日本では7地域が登録されています。(2015年8月現在)

ユネスコエコパーク3つの機能

ユネスコエコパークには3つの機能(保存機能、学術的研究支援、経済と社会の発展)があります。

個々の機能は独立のものではなく、ユネスコエコパークを相互に強化する関係です。この3つの機能を果たすために3つの地域を設定しています。



[ユネスコエコパーク3つの機能]

ユネスコエコパーク3つの地域

ユネスコエコパークは役割の異なった3つの地域に構成されています。

核心地域

国立公園の特別保護地区など、自然環境を守らなければならないいちばん大切な地域。



緩衝地域

環境教育、野外活動、調査研究活動や観光、レジャーに利用できる地域。

移行地域

人が暮らしを営んでいる地域。さまざまな社会活動や持続可能な地域社会の発展を目指す地域。

ユネスコエコパークの魅力

- 南アルプスの山岳環境を永続的に保全していく体制づくりを行い、豊かな自然環境を守り伝えていくことができます。
- 「ユネスコエコパーク」として、ふるさとの魅力を世界へ発信することで、国内外から観光や教育を目的とした旅行者の増加が期待できます。
- 新しい法律や規制はありません。国内の既存の法律などで管理されます。
- 環境教育や学術研究の実践の場として活用できます。

南アルプスの 高い山、深い谷が育む生物と文化の多様性

核心地域

南アルプスを代表する3,000m級の山々の山岳景観や原生的な自然環境、貴重な動植物の生息地となっており、南アルプス国立公園、大井川源流部原生自然環境保全地域等に設定され、適切に保護されている地域です。



赤石岳と前岳のお花畑(静岡市)



キタダケソウ(固有種)



ライチョウ(世界南限種)



登山者で賑わう北岳



高山帯での学術調査

緩衝地域

核心地域の周囲、または隣接する地域。南アルプス国立公園や山梨県立自然公園等に設定され、適切に保全されながら環境教育などが行われている地域です。



甘利山のレンゲツツジ(韮崎市)



南アルプスジオツーリズム(伊那市)



ユネスコスクールの活動(南アルプス市)

移行地域

山地斜面に広がる集落景観、自然と調和した農業や歴史、文化を生かしたエコツーリズムなどが行われている地域です。



標高約1000mの深い渓谷にある下栗の里(飯田市)



300年以上続く大鹿農村歌舞伎(大鹿村)



豊かな水資源を利用した稲作(北杜市)



花々に彩られる入笠湿原(富士見町)



カヤックツーリング(川根本町)

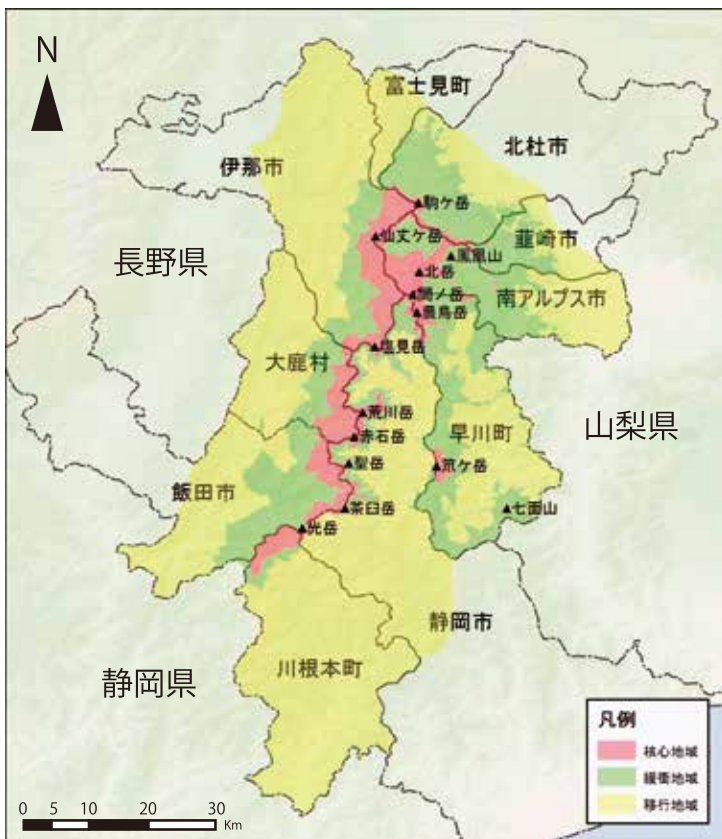


生きものの生態に迫る体験ツアー(早川町)

南アルプスユネスコエコパーク (南アルプス生物圏保存地域) Minami-Alps Biosphere Reserve

南アルプスは赤石山脈と呼ばれ、山梨、長野、静岡の3県にまたがり、東西約15km、南北50kmに及ぶ日本を代表する山岳地帯で、3,000m級の山々を10座以上有しています。また、国内でも屈指の多雨多湿地帯で、低標高から3,000mの高山帯にかけて顕著な森林の垂直分布が見られます。高山帯には、キタダケソウなどの固有種や、氷期の遺存種であるライチョウなど南限種が多く生息する生物多様性に富んだ自然環境を有しています。山稜部には準平原や氷河地形(カール地形)が数多く残され、活発な地殻活動によって現在も年間約4mm隆起し続けています。

文化面では古来より急峻な山岳地形が交流の障壁となり、富士川水系、大井川水系及び天竜川水系の流域ごとに伝統的な習慣、食文化、民俗芸能など個性的な文化圏が発展し現代に継承してきました。かけがえのない自然環境やそこに根付いた特色のある生活文化を受け継ぎ、自然や文化を体験できるプログラム開発などの取組が行なわれています。



南アルプスユネスコエコパークエリアマップ

10の市町村がユネスコエコパークとして結束

従来、南アルプスの山々によって交流が阻まれてきた3県10市町村にわたる地域が「高い山、深い谷が育む生物と文化の多様性」という理念のもと、南アルプスユネスコエコパークとして結束。南アルプスの自然環境と文化を共有の財産と位置づけるとともに、優れた自然環境の永続的な保全と持続可能な利活用に共同で取り組むことを通じて、地域間交流を拡大し、自然の恩恵を活かした魅力ある地域づくりを図ることを目指しています。

面積

総面積	302,474ha
□核心地域	24,970ha
□緩衝地域	72,389ha
□移行地域	205,115ha

ユネスコエコパーク登録までの流れ

2013年9月	南アルプスがユネスコエコパークに国内推薦されることが決定
2013年9月末	ユネスコMAB計画事務局に申請書を提出
2014年3月	ユネスコの生物圏保存地域国際諮問委員会が審査
2014年4月	審査結果をMAB計画国際調整理事会に報告
2014年6月	スウェーデンで開催された第26回ユネスコMAB計画国際調整理事会で審査・登録決定



南アルプス
ユネスコエコパーク

韮崎市・南アルプス市・北杜市・早川町(山梨県)
飯田市・伊那市・富士見町・大鹿村(長野県)
静岡市・川根本町(静岡県)

■事務局 南アルプス市ユネスコエコパーク推進室 〒400-0395 南アルプス市小笠原376 TEL055-282-7261

<http://minami-alps-br.org>

